

令和4年度第2回佐伯市総合教育会議議事要旨

- 1 日 時 令和5年1月12日（木）13時30分～15時10分
- 2 場 所 佐伯市役所本庁舎5階 庁議室
- 3 出席者 (会議の構成員)
- 佐伯市長 田中 利明 教育長 宗岡 功
教育委員 岩佐 礼子 教育委員 平井 國政
教育委員 小寺 香里
- ※山口 清一郎教育委員は欠席
- (教育委員会)
- 教育部長 渡邊 和彦
教育総務課長 久々宮 克也
学校教育課長 石井 睦基
社会教育課総括主幹 戸高 直人
社会教育課総括主幹 橋本 紀昭
体育保健課長 川野 眞司
- (市長部局)
- 文化芸術交流課長 武藤 文雄
- (事務局)
- 総合政策部長 清家 辰治
政策企画課総括主幹 田村 英朝
政策企画課主任 山本 愛子

4 要 旨

次第1 市長あいさつ	
市長	<p>(開始 13時30分)</p> <p>昨年は、令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が拡大していたが、昨日も、全数把握をしていない中でも市内で85人ほどの感染となっているので、全体では200人ほどの感染だと思われる。感染拡大に対しては緊張感を持って対応していきたい。</p> <p>昨年1月の日向灘地震では、震度5強と大きかったが、南海トラフ地震の発生も危惧される中、我々に対しての警鐘だったのではないかと思ってい</p>

	<p>る。</p> <p>台風14号についても、台風の規模が大型化してきたように感じた。</p> <p>総合教育会議は平成27年から開始し、今回で13回目の開催となる。一番大事な「さいき“まなび”プラン」があり、市町村合併以来今日まで18年間、先人が築いてきた計画も大切であるが、これからの時代を踏まえ、オーガニックシティさいき、地域が輝く佐伯がいちばんのまちづくりとなっていく。今までのようにバラバラの対応ではなく、経済・社会・環境が調和した循環型共生社会を作っていく、その手法としてシェアリング、デジタル、グリーンという視点を横断的に取り入れる。そういう意味では学校教育・社会教育を含めて、佐伯市民の教育大綱を新たに策定しながら、従来の“まなび”プランも前進させていきたい。</p> <p>「さいきオーガニックシティ」は人と自然が共生する持続可能なまちづくりを目指す、国際的なSDGsの流れを踏まえている。また、大分空港が「宇宙港」としての活用されることが決まったこともあり、宇宙教育にも力を入れているかなければならない。国の流れ、県の流れも変わってきている。そういった中で幅広く佐伯市の教育について見直さなければならない時期だと思っている。そういう意味で、佐伯市教育大綱についてみなさんから意見をいただきたいと考えている。</p>
--	--

次第2 協議事項

事務局	<「佐伯市教育大綱（案）」について説明>
市長	<p>ただいまの説明に基づき、質問・意見がありましたらお願いします。</p> <p>まず私から、昨年11月、兵庫県豊岡市の芸術文化観光専門職大学に視察に行った。県立の大学であるが、設立に携わった前市長である中貝宗治氏と劇作家で同大学の学長である平田オリザ氏と懇談した。表現教育を通じて、文化芸術、観光にも活用していくという専門職大学に行ってきた。豊岡市では各小中学校で演劇教育を行い、これを子どもたちの生きる力としていきたいという思いがある。</p> <p>佐伯市でも「佐伯市こどもミュージカル」が年に1～2回公演をするが、市民に大変感動を与えている。中には、障がいのあるお子さんもいるが、団員約80人がそれぞれ生きる力を持って生き生きしており、自己表現をしている。「こどもミュージカル」は一つの団体が行っている事業ではあるが、不登校、いじめといった課題がある中で、学校という場所に縛られることなく、集団の中でそれぞれが自己表現を行っていくことがこれから大切だと思う。演劇教育について関心を持ち、平田学長と話をしたが、佐伯市がそう</p>

	<p>ということに取り組むのであれば十分に支援するとお言葉をいただいた。文化芸術は人の感性、人間性を豊かにするので教育において重要な部分であると思っている。単に暗記力がありテストに強いだけでなく、むしろ人間として自然に関心を持ち、人に優しい人を育てこのまちを創っていく。人間形成の手段として有効だと思った。プロの舞台や素晴らしい絵画を鑑賞することも大事だが、自ら主体となって参加していく、公民館をコミュニティセンター化していくのと同様に、客観的な視点で佐伯市を切り拓いていく人たちだけでなく自らが地域の中に入りこんで地域を創る、クリエイティブな面が教育でも必要だと思う。子どもたちも単にミュージカルを見るだけでなく演じることで人の傷みや人の楽しみ悲しみを演じられることが大切だと思っているが、教育委員会はどのように考えているか。</p>
<p>教育長</p>	<p>市長の言うとおりで、観劇・鑑賞は学校でも力を入れている。子どもたちが自ら主体的に参加してというところはなかなか実現できていない。そういう部分を総合的な学習やSTEAM教育を充実させながら対応できると良いと考えている。国語の中で表現をする単元があるとするなら、国語だけで終わらせるのではなく、美術などにも活かす。そういったことに取り組んでいき、力を入れていきたい。“まなび”プランでも取組として盛り込みたい。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>できればまず、教育委員の皆さんから演劇教育・自己表現の場をつくることについて意見をきき、こちらとしても前向きに考えていきたい。</p>
<p>小寺委員</p>	<p>教育長も言っていた教科教育の中での子どもたちの表現部分について、自己の表現力を高めることで子どもたちが心を開放することができる。心の育成は小学校教育の中でも重要な部分だと思う。教科の部分で、表現がそれまでの子どもの経験によって物事の捉え方が違うので、ペーパーサートや、一人一台のiPadを活用して、いろんな表現の方法を学んでほしい。この5年で社会も教育も大きく変わってきている。佐伯市が置いてけぼりにならないでほしい。一人で一枚の画用紙に書くのもよいが、協働的に、クラスみんなでひとつの課題に挑むような、また学校を超えて取り組むようなこともしてほしい。こどもミュージカルの場合は、障がいの有無を超えて、学校を超えて作品を作り交流するところが良い。学校でも、少しでもそういう部分を取り入れられるようなアプローチをしていけると良いと思った。</p> <p>みんなで作り上げる中で愛校心や郷土愛を育てる取組を、先生方、教育</p>

	<p>委員会と連携して行えると良い。</p>
平井委員	<p>こどもミュージカルは素晴らしいと思っている。自分を表現する方法を学ぶことができる。自己肯定感を持たず、自分を表現できず誰にも相談できずストレスを抱えてしまって、精神的にも弱くなることが多い。精神面が整えば、自分の目標もできるし、他者ともコミュニケーションがしっかりとれる。</p>
岩佐委員	<p>“まなび”プランでもこの部分が大事と思う。生徒指導以外でも、表現教育など自己肯定感を高める取組を行う必要がある。</p> <p>プロの俳優さんのインタビューを聞くと、劇をするときは役になりきるが、していないときは一人でいたいなどと思うときもある。内向きの人格であっても、演劇では別の人格になりきることで、表現できるチャンスになる。ダンス、絵を描かせる、男性でも編み物、得意なアーティスト的な側面で、自分の得意技で自分を表現する。表現方法を多様化して進めていくことがよいのでは。子どもの内向きな気持ちを外に出すチャンス。</p>
市長	<p>芸術文化観光専門職大学で私が感じたのは、舞台衣装を生徒が作ったりして大道具などを作成しており、舞台技術について、それぞれの学生が得意なことを担当している。単に劇を演じるだけでなく、総合的な舞台芸術を作り上げている。ぜひ教育委員・事務局も豊岡市に行って平田氏と話をし、具体的な豊岡市の学校の演劇教育を見に行ってもらいたい。佐伯で取り入れるとなれば、誰が指導できるのかという話になるが、講師や大学の学生がその時期に佐伯に来て演劇指導をするなどできる。できない理由ではなく、できる方法を考えてほしい。</p> <p>シェアリングという言葉は連携という意味もあり、子どもたち一人ひとりが個性を持ちながら連携し、生きる力を育むことができる。</p> <p>時代のテーマの元に、佐伯の子どもたちがたくましく生きる、自立した子どもとなるよう支援していきたい。</p>
平井委員	<p>この大綱の案を見たときに感じたことだが、大綱はわかりやすいが“まなび”プランとほぼイコールである。同じものが二つ必要なのだろうか。策定の趣旨に、大綱は教育行政に関する施策の方向と書いており、詳細な施策について定めることを求めるものではないと記載がある。</p> <p>私は、“まなび”プランは施策だと思っている。これでは大綱が施策になる。私のイメージでは、佐伯の子どもはどうあるべきか、佐伯市民はどうある</p>

<p>市長</p>	<p>べきかと書くのが大綱ではないかと思っている。 例えば、西宮市の教育大綱を参考にしてほしい。</p> <p>平井委員の「さいき“まなび”プラン」と教育大綱がよく似ているというご指摘はごもつともで、私は“まなび”プランの今後の在り方について検討が必要だろうと考えていたところ。前市長の任期中に、前教育長の元で策定されたものだが、これもよくまとまっている。ただ、今の時代の流れや佐伯市が目指すオーガニックシティを実現する人材、教育という視点が足りないということもあり、“まなび”プランを廃止して教育大綱の中で新たに謳っていくことも考えられる。今回の教育行政の計画ではずれがないよう調整しているのがよくわかる。</p> <p>確かに同じような計画・大綱を二つ作るのはいかがなものかとも思う。大綱となれば、西宮市のように一つの大前提を掲げながら、各論として各分野で決めていくという在り方がいいかと思う。ご指摘は非常に大切だと思う。</p> <p>教育行政の計画、大綱の関係性では、大綱の方が上に位置付けられる。上位にありながら各論として細かく記述するのはいかがかと思うが、この案ではさほどではない。その扱いをこれから整理しなければならない。</p>
<p>教育長</p>	<p>大綱が上位で、“まなび”プランがあるという位置づけだが、“まなび”プランがないと教育委員会がPDCAを回しながら取り組むベースがなくなってしまふ。いずれにせよ教育委員会が大綱の中に具体的にそこまで示していくのか。大綱は大まかなもので、あとは別に定めるという自治体の考え方もある。教育大綱の中に“まなび”プランのお題目を書き連ねていく必要はないかもしれない。</p>
<p>岩佐委員</p>	<p>ほぼ重なっているように見えるが、確かにおおまかな方針・指針を それに対応する重点施策を“まなび”プランで書いていく形がよいと考えた。</p>
<p>小寺委員</p>	<p>みなさんがおっしゃるとおりで“まなび”プランは枝葉というか、細かいところを示すのでは。佐伯市が打ち出している「オーガニックシティ」がニュアンスとしては大綱の部分で、人づくりの教育が目指すところ。例えば、道徳教育の充実も、低学年・中学年・高学年と段階でそれぞれ達成目標があり、学校現場で言えば教育目標で達成したいものも学年でそれぞれ段階がある。市が目指す、「さいきオーガニックシティ」を実現するための人材育成に加え、教育現場でなすべきことがあると思う。具体策というところが</p>

	<p>“まなび”プランであり、教育大綱は少し大まかな目標になるという印象を受けた。</p>
市長	<p>ご指摘は非常に大事なものだと思うので、教育大綱の案を一度検討した方が良いでしょう。事務局に整理してもらおう。学校教育課から何かあれば。</p>
学校教育課長	<p>教育大綱を策定することとなったのが、新教育委員会制度となった段階である。もともと各自治体が教育に関する計画を持っていた上に教育大綱を作りなさいという法律が関わってきたので、後付けで教育大綱が被り、いびつな形になっているのでは。市長が言うように、一本化するなら教育大綱の中に方向性・方針を出して、施策をそこに含めてしまって、総合教育会議の場で市長と教育委員の皆さんで協議し一本化する形もあると思う。今のような形で、制度にも書かれているが、今ある長期総合教育計画があるのであれば、無理に必ず大綱を策定しないといけないわけではないし読み替えることもできる。その選択はこの総合教育会議の場であればよいかと思う。</p>
教育部長	<p>西宮市の、佐伯市で言うところの“まなび”プランを確認したが、教育大綱に基づいてより詳細な取組が記載されている。“まなび”プランの前期の計画を後期に向けて改訂作業を進めていたが、教育大綱との関連は学校教育課長が申し上げた部分もある。関係性については、市長の言うように見直しが必要だと思うが、どっちが譲ってどっちが譲らないという形ではなく、同じものを二つ並べるのはもったいないと思うので、整理が必要だと思う。</p>
市長	<p>二つのものを一つにまとめるとするなら、“まなび”プランを教育大綱に入れ込む形が新しい時代に合っていると思うが、いかがだろうか。</p>
岩佐委員	<p>大綱は細かい施策を謳う必要がないので、分けてもよいと思う。西宮市の教育大綱はコンパクトな文で教育に関する市の思いを書いているが、確かに市長が言うようなオーガニックシティ、SDGs、表現教育などをわかりやすく文に書いてもいいのでは。市の全体的な方向性の中で佐伯の子どもたちが育っていくという、そういう部分を掲げては。“まなび”プランにはそういった部分がない。それを書けるのが大綱。</p>
平井委員	<p>西宮市の大綱が良いところは、市民が読んでわかりやすいことだと思う。</p>

	<p>“まなび”プランは市民が読んでもわかりにくい。大綱は佐伯市の姿勢を示せるものであると思う。</p>
市長	<p>教育委員の意見もだいたいいただいたので、事務局に教育大綱の修正案を作成してもらおう。素案ができれば、会議の場で話すなり、委員の皆さんに配布して意見をいただきたい。</p>
事務局	<p>今いただいた意見を参考にしながら、整理しなおして、お集りいただくかどうかは検討するが、出来上がりをいずれかの方法で皆さんに提示して再度意見をいただきたい。</p>
総合政策部長	<p>皆さんからご指摘があったように、教育大綱があつて“まなび”プランがあるという構図ではあるが、“まなび”プランがあつて、それに沿うような形で、整合性を取って教育大綱を作っているのが事実。学校教育課長からも話があったように、ある自治体では大きなテーマだけを作った形で教育大綱としている、あくまで教育振興計画と整合性を取っているというところもある。平井委員がおっしゃったように、皆さんがイコールはまずいとおっしゃっているので、我々も、テーマを大きくした形での教育大綱の修正案を作成したい。</p> <p>ただ、4ページの基本理念について、この部分の考え方についてご賛同いただけるかどうか、この場で意見をいただきたい。</p>
市長	<p>総合政策部長からの質問について、何か意見があれば。</p>
平井委員	<p>理念はこれでよいのでは。</p>
教育長	<p>理念はこれでよいと思うが、一つ付け加えをお願いしたいのが、理念が子どもたちの学校教育にどうしても焦点が当たっている。西宮市の例にもあったが、佐伯市民の中でも大人が、自分たちが生涯教育でこういった形で教育を捉えていけばよいか、大人の部分についての理念も必要かと思う。</p>
市長	<p>それがコミュニティセンターの運営にもつながる。自分たちの地域は自分たちで作る意識が必要。そういう概念も入れてほしい。</p> <p>今教育長が指摘したような、自立心の確立を目指す教育を市民にも訴えていく筋書きも大事かと。</p>

小寺委員	<p>“まなび”プランでは「人が学び、人が活き、人が育つ持続可能な教育の創生」としていたが、大綱では同様にしないのか。</p>
総合政策 部長	<p>“まなび”プランの全体目標がそうになっているが、それと合わせることも検討していきたい。</p>
市 長	<p>教育大綱については修正をとりまとめて、次回どういう形の開催になるかわからないが、教育委員の皆さんにはご連絡差し上げたい。</p> <p>先日、佐伯豊南高校の生徒がロボット相撲全国大会で優勝した。指導者の先生がかなり有名な方。プログラムソフトを作成することが非常に大切だと思った。GIGAスクール構想でも、タブレットを整備するのみならず、操作や情報を取ることは長けてくるが、それを動かすソフトも大事。そういう段階に引き上げていかないといけない。STEAM教育として、福岡県中間市がソフトバンクと連携して、ロボットを動かすプログラミング教育を行っている。実際にデジタル化が子どもたちの中に落とし込まれて、感動を覚える。ただタブレットを扱うのが上手になるだけでは本当の意味でのデジタル教育とならない。もう一步踏み込んだ教育が必要。先生たちもどうソフトを作るかと悩むことになると思うが、子どもたちの方がはるかに長けている世界もある。具体的なSTEAM教育が大切。佐伯市が平成30年からケーブルテレビの光化に取り組み、多額の費用を投入し、市内の社会資本として整備してきた。これから光化から今度は5Gへ、もっとスピードがあり大容量のデータを処理できる世界に進化していく。広い面積と過疎化していく中でデジタル社会を作っていく、そのためにはスマホを扱える、インターネットができるなど、高齢者もできないのではなくできるようにしてあげる、誰一人取り残されないデジタル社会を作ることが大事。学校教育のみならず、高齢者にも丁寧にデジタル教育をしていく必要がある。</p> <p>今回、マイナンバーカードについても必要ないと、申請率が最初県下最下位の状況だったが、今では70%を超えて県内2位である。ただ、取得したから良しではなくどう活用するか、利便性と恩恵を市民が享受できるようになれば、デジタル化社会と言えるのではないかと思っている。ハードの扱いと同時にソフト面でも、民間の力を借りながら、教育の中でもどんどん取り組んでいただければ。</p> <p>企業の方でもデジタル化には取り組んでいるのでは。</p>
平井委員	<p>取り組んでいる。また、デジタル化が進む中で子どもたちがICT機器を使えるかも心配である。実体験として、海外旅行をするときに携帯電話を持</p>

	<p>ってないと何もできないことに気づいた。入国の際も、なくてもよいがないとすべて書かないといけない。出国の際も申告を携帯です。タクシーに乗るときにとあるアプリを使用してすごいと思ったのだが、携帯にGPSがついているので、タクシー会社がお客さんがどこにいるかすぐにわかる。どこからどこに行きたいと入力したら料金が出てきて、一番近くにいるタクシー会社が表示される。決済もクレジットで落ちる。また、5%、10%、15%と三段階から選べてチップを渡すこともできる。最後、荷物を降ろしてサービスを完了させてからの支払いで、安全だし、アプリでドライバーの写真も出るので、安心して利用できる。ドライバーが女性か男性かも選べる。</p> <p>自分の子どもに対しても思ったが、社会に出るまでにパソコンの使い方を学べるかが心配だった。パソコンや携帯電話の使い方を習得しておいてほしいと雇う側としても思うこと。</p>
市長	<p>神社のお賽銭もスマホで決済する時代。キャッシュレス社会というのを様々な場所で実感する。スマホとカードがあれば現金を持ち歩かない、そういう国際社会の動きを、早い時期に子どもたちに知ってもらいたい。</p>
教育部長	<p>平井委員のお話を聞いて思い出したが、年末年始に曾祖父から孫まで、家族が12人集まった。私の弟が、子どもたちにお年玉をキャッシュレスアプリで渡していた。あちこちで振り込まれた音がしていて、デジタル化ってそういうことでもあるなと実感した。</p> <p>また、知り合いから電子名刺を紹介されたことがあった。スマホに一瞬触れるだけで経歴、趣味、SNSなどがわかる。わずか数千円で今後名刺を一切作らなくてもよいというの。カーボンニュートラルやグリーンを考慮すると、良い考えだと思った。経済人ではないが、会社のホームページに飛んだり、ふるさと納税のページに飛んだりつながっていくと飛躍的に変わるのでは。成人式の時に、当時受け持っていた子どもたち20数名と会った。名刺配るよりもその電子名刺を活用し、名刺を配るよりも一瞬で終わった。子どもたちとつながり、写真の送付もスムーズだった。今年年男で60歳になるが、しっかりついていけないといけないと思った。そして子どもたちには、はるかにこういう世界に慣れていかなければならないので、たたきこまないといけないと思った。</p>
小寺委員	<p>デジタルに強い子どもたちを育てることは、2060年に佐伯市の人口が減少して3万人台になるということを考えると、私のところも必須であると</p>

	<p>思った。そしてまたこれだけ広大な面積に対して、人口が減っていくというところでデジタルと上手に付き合える子どもたちを育てることが大事。そして忘れてはならないのが、うちも福祉であるので、人とのつながり、感動する心も同時に育てながら、人口減少に耐えられる佐伯市になるのも大事な科学の力だと思う。教育がまちを救う、子どもたちがいつかどういう形かで佐伯に関わるときに、知らなかったとならないように、これから私も親の立場として頑張らないといけないと思った。</p>
<p>岩佐委員</p>	<p>子どもにデジタルを叩き込むのはこれから必須になると思うが、逆説的に考えて、アナログの力も付けておく必要がある。日本は災害国なので、大停電とか、全くスマホが使えなくなったりとか、孤立してしまったりとかもあり得るので、両方の力を生きる力として身に付けてほしい。例えば、マッチとかなくても火をつける技術など。</p>
<p>市長</p>	<p>大変大切なご指摘。大脳は知識やデジタル化に関するところが得意だが、生きる力を司る脳幹、我々が意識せずとも心臓を動かせる、あるいはまた体全体に血が流れるシステムは脳幹で、寝ていても働き続け、そこが芸術文化とか、感動する心とか、感謝する心とか、人間として基本的なものを扱っている。大脳偏重になりすぎると勉強だけが得意という人が出てくるが、脳の使い方がバランスのいい人を育てなければならない。ぜひ大脳と脳幹の使い方の調和のとれた人が、オーガニックシティの考え方で目指す人だと思ふ。</p>
<p>教育長</p>	<p>そのためには教師をいかに育てるか。アナログ力は得意なところだがデジタルの力が不足している。子どもにプログラミング教育を進めるにあたって、教えてみたら子どもたちの方が得意ということがある。より高度なものを子どもに与える必要があると思っている。デジタルとアナログ、両面を教えられる教師を育成したい。</p>
<p>市長</p>	<p>以上で、令和4年度第2回佐伯市総合教育会議を終了します。</p> <p>(終了 15時00分)</p>